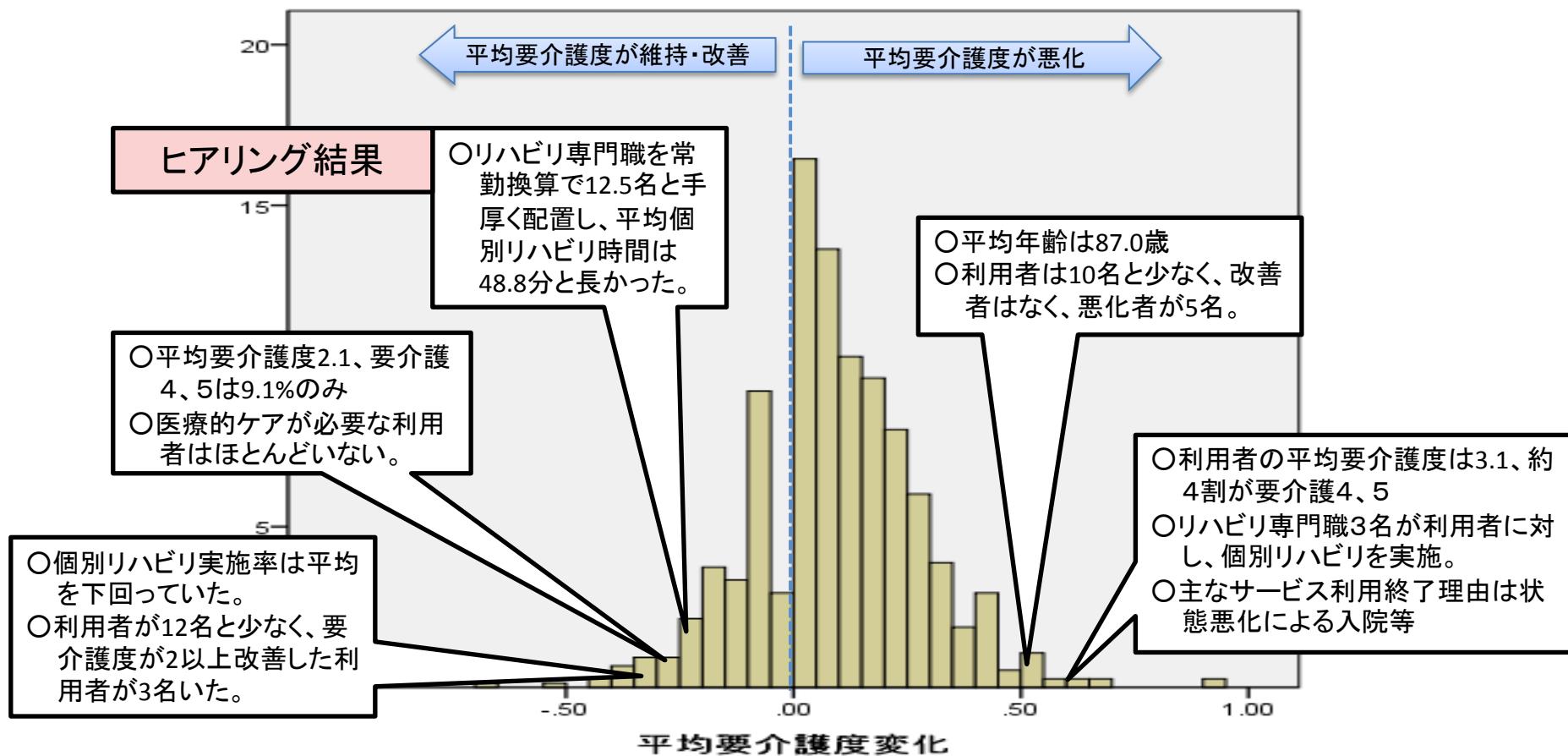


# 通所リハビリ事業所毎の1年間の平均要介護度の変化の要因分析

- 平均要介護度が改善している事業所と悪化している事業所で、リハビリの提供状況やリハビリ専門職の配置に大きな差は認められなかった。
- 改善している事業所は人員配置を厚くし、充実したリハビリを行っている事業所がある一方で、重度者の割合が少なく、医療的ケアの必要性が低い利用者を中心に受け入れている事業所もあった。
- 悪化している事業所は重度者が多く、平均年齢が高い傾向が認められた。
- 事業所毎のサービスの質の差より、利用者の特性の方が事業所の平均要介護度の変化に影響を及ぼすと考えられ、要介護度変化をアウトカムとして事業所を評価することについては専門家からも慎重な意見があった。



注)対象事業所:1年前と1年後で、同じ利用者が10事例以上ある事業所。

出典:平成23年度厚生労働省老人保健健康増進等事業「通所リハビリテーション及び通所介護サービスに関する調査(速報値)」

## 事業所毎の調査時平均要介護度別の一 年間の平均要介護度の変化

- 要介護度が低い利用者が多い事業所は、1年間の平均要介護度は重度化しにくい反面、より重度者が多い事業所ほど1年間の平均要介護度は重度化する傾向がある。
- 重度者をより多く受け入れている事業所ほど、1年間の平均要介護度変化は悪化しやすい。



調査時の 平均要介護度	1年間の平均要介護度の 変化
1.0～1.5	-0.03
1.5～2.0	+0.03
2.0～2.5	+0.06
2.5～3.0	+0.14
3.0～3.5	+0.22
3.5～4.0	+0.23
4.0～4.5	+0.50
全体	+0.09